

経済情報：2023年7-9月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

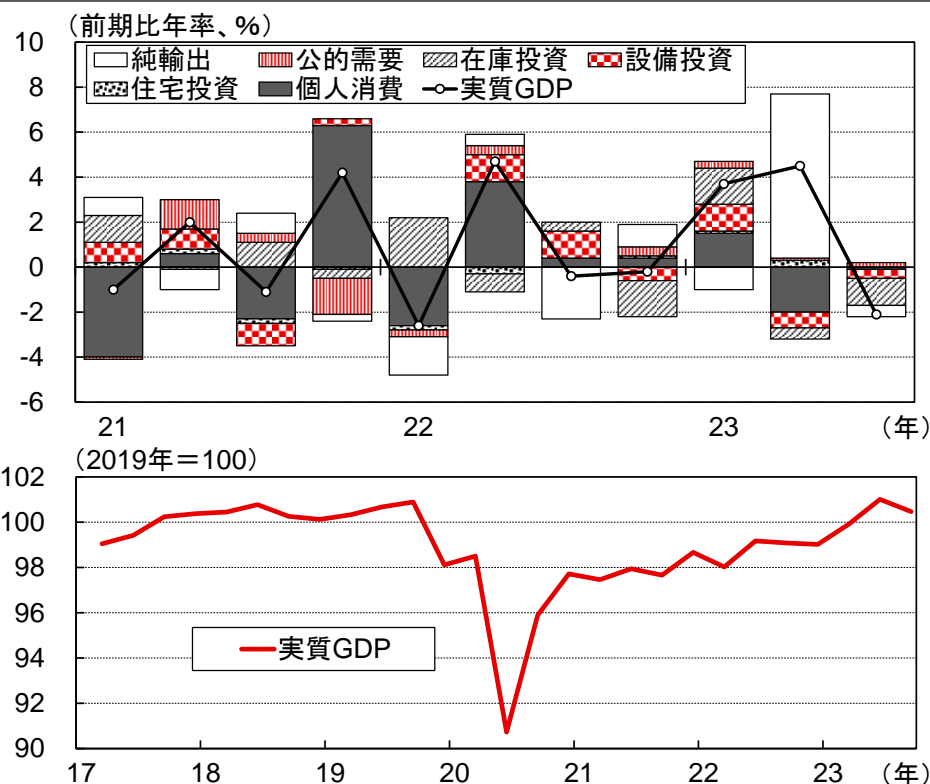
2023年11月15日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2023年7-9月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率▲2.1%と3四半期ぶりの減少に転じた。在庫投資による押し下げも相応にあるものの、個人消費や設備投資が2四半期連続で減少しており、内需が冴えない結果となった。
- 先行き、家計の実質所得の改善には時間を要すること、企業の設備投資に対する慎重姿勢がみられること等から、当面景気回復のペースは緩やかなものに止まるとみる。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

	(前期比年率、%)			(寄与度)
	2023年 1-3月期	2023年 4-6月期	7-9月期(1次速報値)	
実質GDP	3.7	4.5	▲2.1	—
民間需要	5.6	▲3.8	▲2.3	(▲1.8)
個人消費	2.6	▲3.5	▲0.2	(▲0.1)
住宅投資	2.0	7.2	▲0.3	(▲0.0)
設備投資	7.0	▲4.0	▲2.5	(▲0.4)
在庫投資	(1.6)	(▲0.5)	—	(▲1.2)
公的需要	1.2	0.4	0.6	(0.2)
政府消費	0.3	0.1	1.2	(0.3)
公共投資	5.9	1.1	▲2.0	(▲0.1)
純輸出	(▲1.0)	(7.3)	—	(▲0.5)
輸出	▲13.4	16.7	2.1	(0.5)
輸入	▲8.0	▲14.5	4.2	(▲1.0)
GDPデフレーター(前期比)	1.3	1.4	0.5	—
名目GDP	9.4	10.5	▲0.2	—

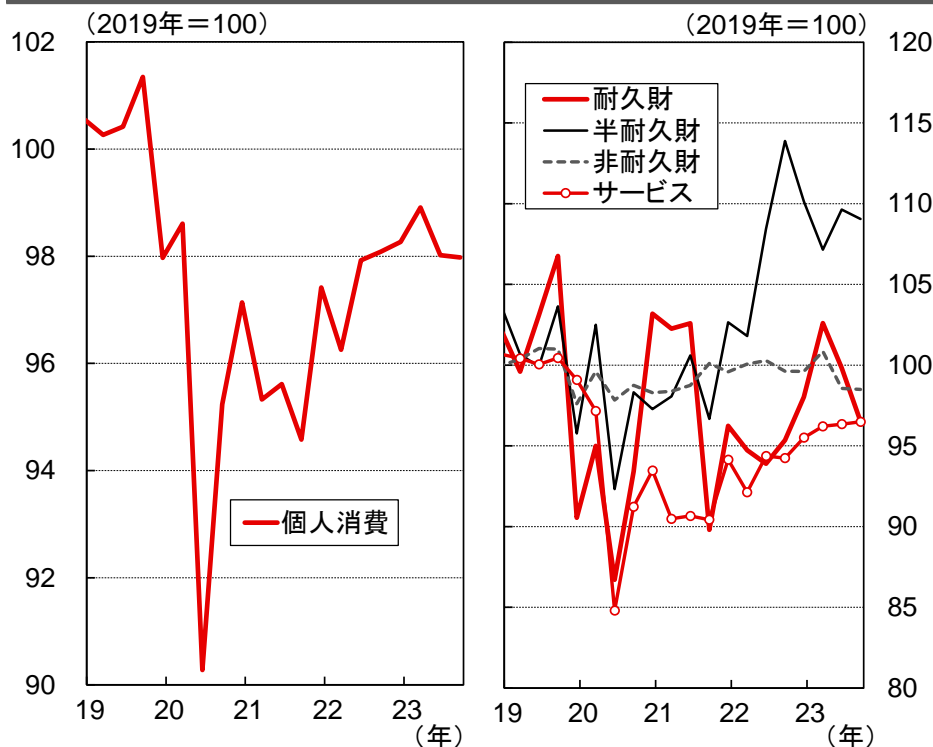
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

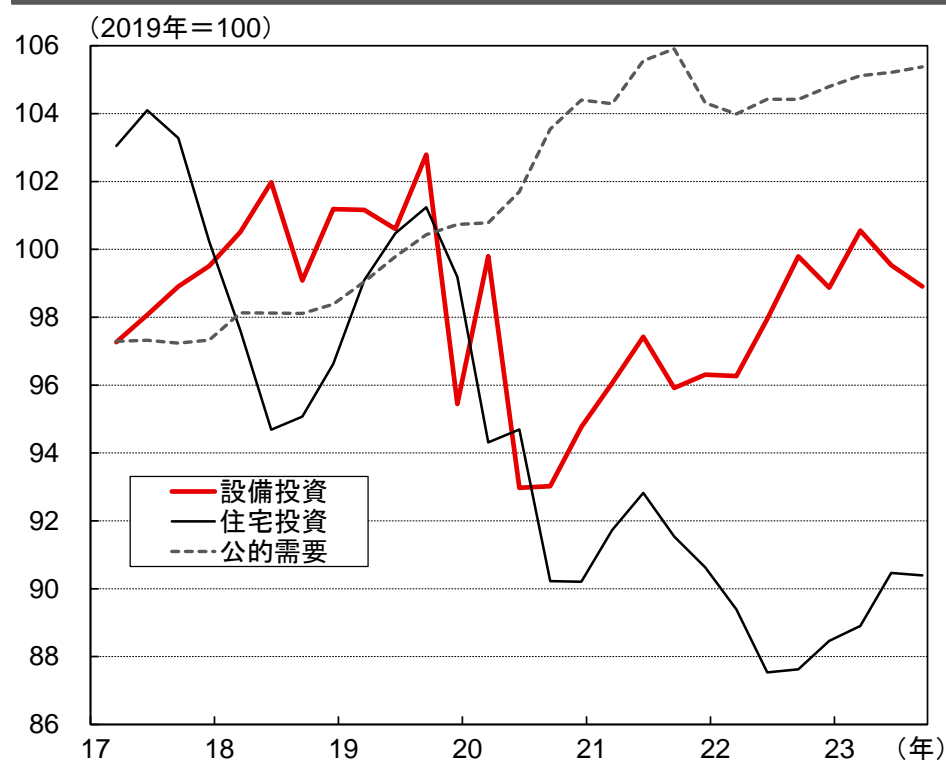
- 個人消費は前期比年率▲0.2%と2四半期連続で減少。経済活動正常化に伴い『サービス』の回復は続いているものの、物価高に加えて、自動車の一時的な供給制約により財消費は総じて減少。
- 設備投資は同▲2.5%と2四半期連続で減少。日銀短観では企業の高い設備投資意欲が示されている一方、軟調な個人消費や海外経済減速への懸念等から、実際の投資は慎重なものに止まっている可能性がある。
- 住宅投資は同▲0.3%と5四半期ぶりの減少。住宅価格高騰もあり、低迷が続いている。
- 公的需要は同+0.6%と4四半期連続の増加。公共投資は6四半期ぶりに減少したものの、政府支出の増加が寄与した。

実質個人消費、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

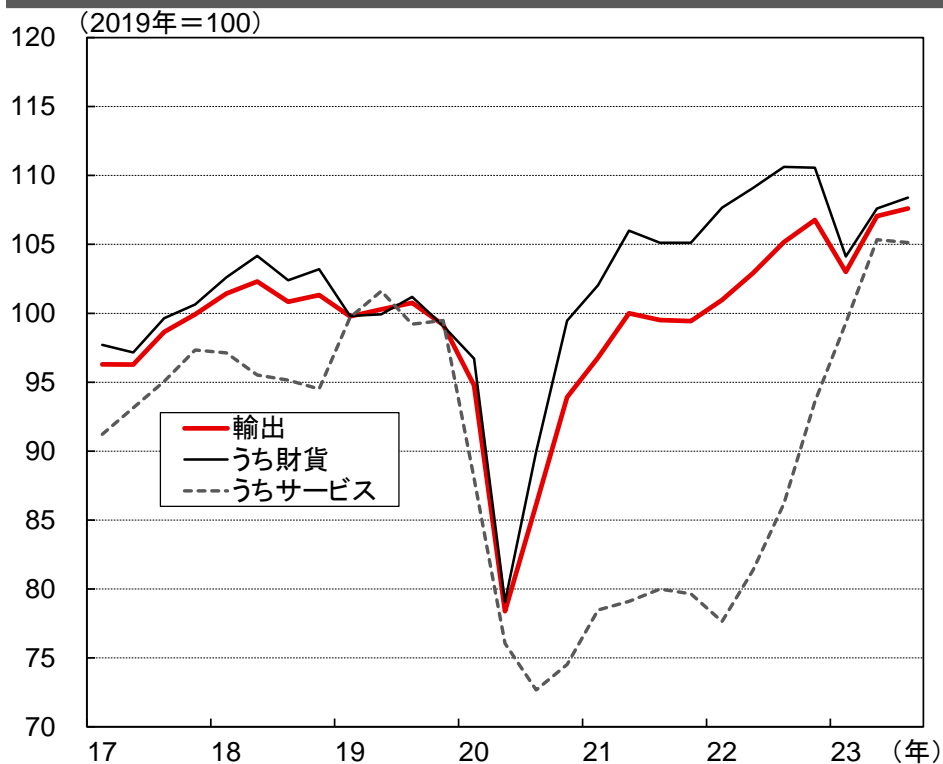


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

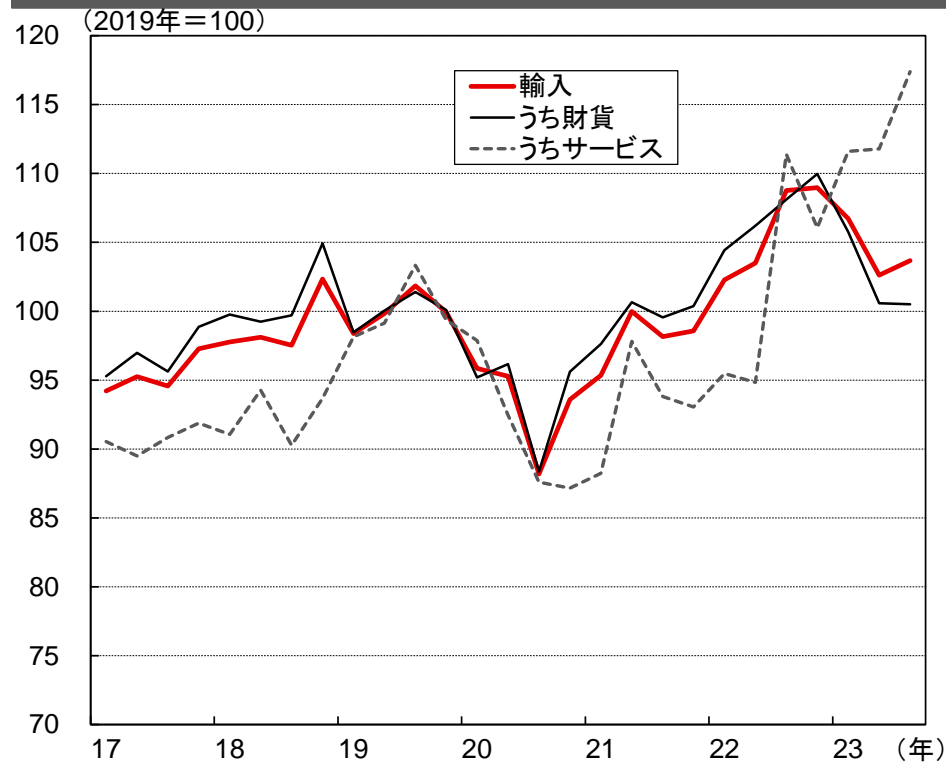
- 輸出は前期比年率+2.1%と2四半期連続で増加。先進国向けの自動車輸出が下支えしたとみられる。
- 輸入は同+4.2%と3四半期ぶりに増加。サービス輸入の増加が輸入全体を押し上げている。
- 結果として、純輸出(輸出-輸入)の寄与度は同▲0.5%ポイントと2四半期ぶりのマイナスに転じた。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：矢吹 彩 e-mail: sai_yabuki@mufg.jp